

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/01/24号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

ゴールド抵抗線1830ドル突破！

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



ゴールドはしばらくの上値抵抗線であった1830ドルを突破、新たなレンジに突入しました。1830ドルを超えたレベルでは、いわゆるストップロス（損切）やフレッシュ（新たな）の買いオーダーが並んでいたようで、ヒットした瞬間に1840ドルまでゴールドはジャンプしました。長期金利は高いまま、ドルもしっかりという環境のなかでのゴールドの上昇は、もはや金利上げや金融緩和の終了でゴールドが大きく下げるといふ見方はほとんど否定されつつあると感じさせます。ロシア-ウクライナ情勢の緊迫化による地政学リスクも増大、バイデン政権が\$200milのウクライナへの軍事防衛資金援助を発表したタイミングでゴールドが上昇したのは、この地政学的緊張に対して投資家が動いていると考えるべきでしょう。そして米国のみならず世界的なインフレの進行。英国でも12月のインフレ率が5.4%と1992年以来の高いレベルとなり、カナダではCPIが4.8%と30年来の高い数字で、このような世界的なインフレの拡大もまた、safe haven 資産であるゴールドそして貴金属に資金が流入した理由でしょう。マーケットでは昨年12月までずっとインフレを「transitory（一時的）」としてきたFRBが、今年に入って矢継ぎ早に金利を上げなければならなくなるという「政策ミス」による経済の混乱に対してのヘッジとしてゴールドが買われているとみる向きもあります。恐怖指数VIXも大きく上昇しました。インフレ対策が後手後手に回り、あまりに急激に舵を切ることによって経済が混乱するリスクです。このところの株価の急落はまさにその可能性を示していると言えるのではないのでしょうか。だとすれば、金利の上昇にもかかわらずゴールドに資金が流入している状況が理解できるでしょう。昨年は資金流出が大きかったゴールドETFも今年は流入になりつつあります。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

円建てのゴールド価格（続き）

今回は一般的に目にする国内での円建てゴールド価格についてです。おそらく一般の人が最も目にする機会が多い「小売価格」はこのロコ・東京のゴールド価格（東京渡しの条件でのスポットゴールド価格）ですが、少し詳しい解説が必要です。

2022年1月21日の小売価格は1グラム7452円（消費税込み）です。1kgバーは7,452,000円となります。小売価格とは平日の毎朝9時半に貴金属商で公表されるその日の価格で、よほど大きな相場変動がない限りその日一日は有効な価格です。しかしゴールドのマーケット、ドル円相場とにもずっと動いています。その絶えず変動している相場のリスクをとっているため、そのリスクを許容するための余裕と各貴金属商が自分のブランドのゴールドを改鋳するコストなどがその価格には含まれています。7452円を税抜きにすると6774円、9時半時点のロコ・ロンドン・ゴールド価格は6731円であったので、この場合43円くらいのバッファがあるということになります。

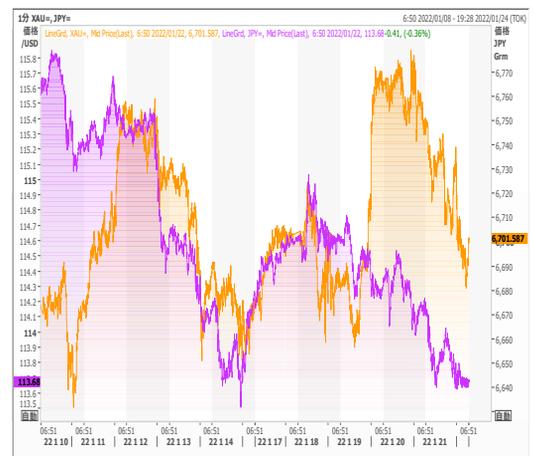
もうひとつ毎日公表されている価格として「山元建値」という海外でいうところのProducer Price（生産者価格）があります。日本のゴールドの山元建値は住友金属鉱山が毎朝発表している価格です。（シルバーは三菱マテリアル、銅はJX金属、亜鉛は三井金属、鉛は三菱マテリアルという具合に担当鉱山会社が決まっています。）同じ1月21日の山元建値は6750円でした。小売価格も山元建値も、貴金属商および鉱山会社はその日の朝のLoco Tokyo goldと為替から計算される円建て価格をベースとして、彼らの立場とコストに基づいて発表した彼らの側からの売りたい価格ということです。（小売価格には買い取り価格も示されています。ちなみにこの日の買い取り価格は税込みで7348円、税引きで6680円、売り値とのスプレッドは94円ということになります。もし日中のゴールドの価格の動きがあまりに大きくなった時には、小売価格も改訂される場合があります。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

